世之女

好色一代男

WA 9
(4)
10

好色一代男　8冊　WA9-10　04-001　国立国会図書館

好色一代男

書目録

二十女
二十九女
三十女
三十一女
三十二女
三十三女
三十四女

アヤキ
16.1.22 国会図

好色一代男 8冊 WA9-10 04-002
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

第八　因果乃せきりゝ

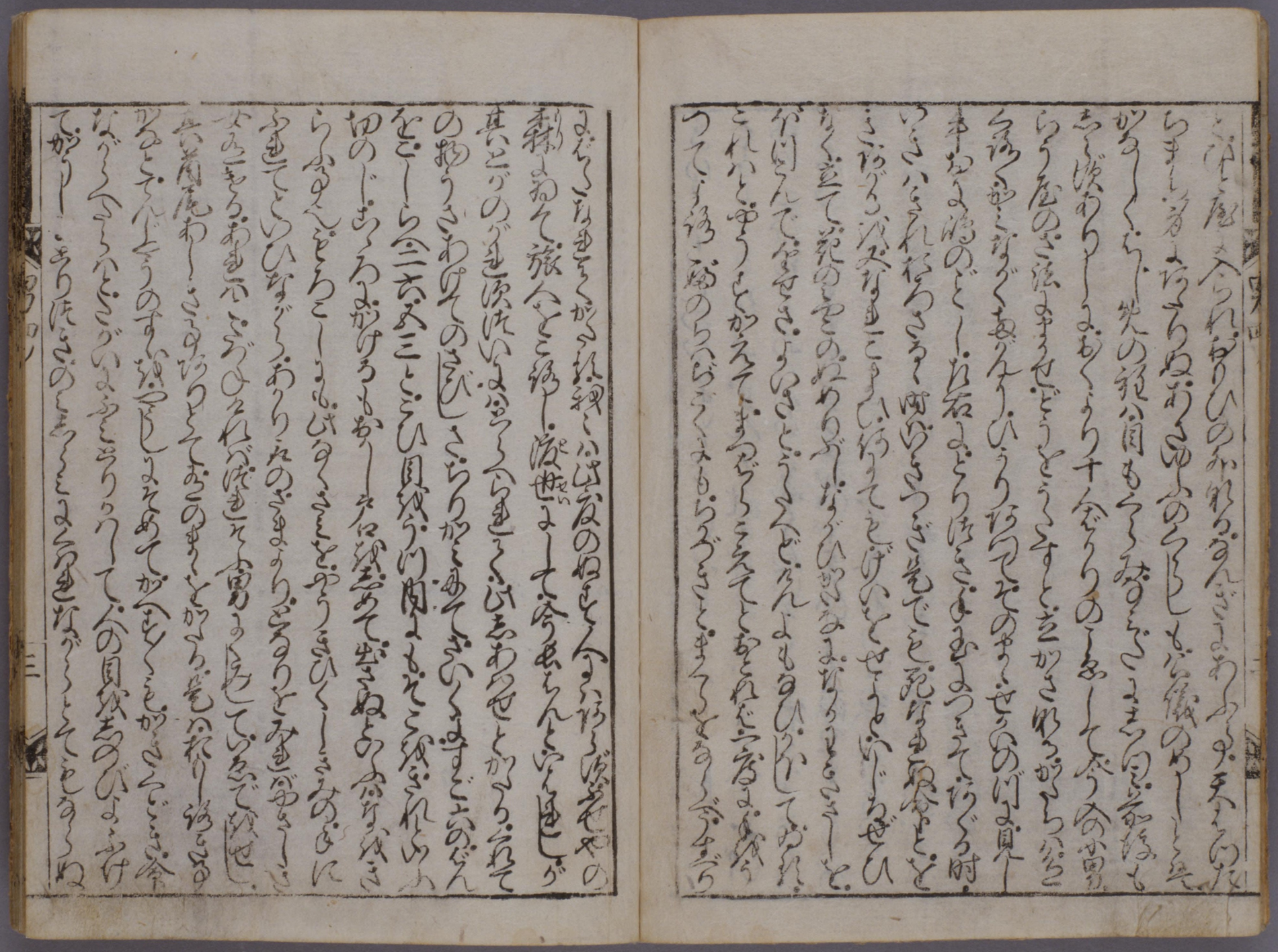
[illegible]

[illegible]

[illegible]

好色一代男　8冊　WA9-10　04-003
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



好色一代男 8冊 WA9-10 04-004
国立国会図書館

十九

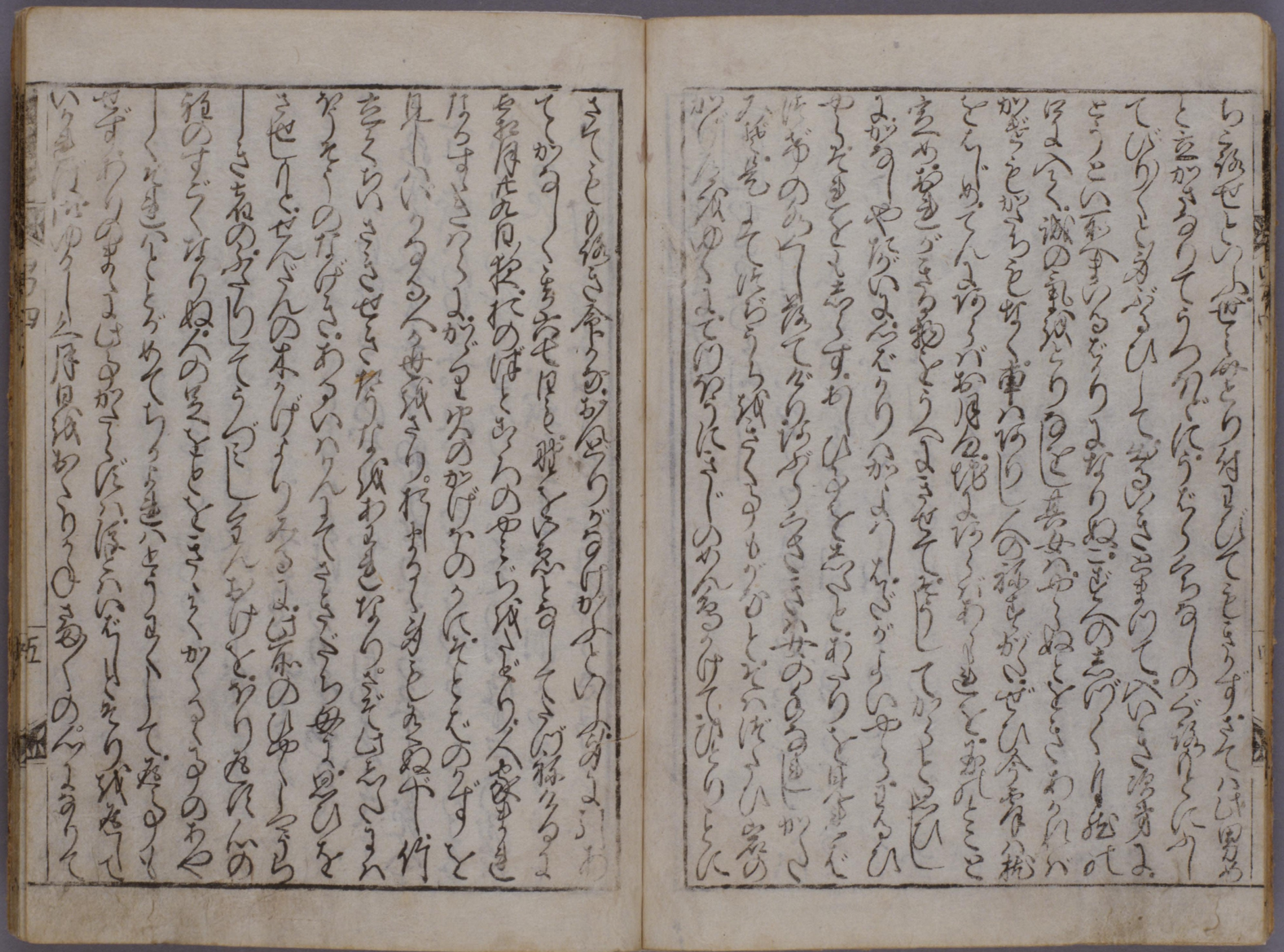
かるこんのこと

[illegible]

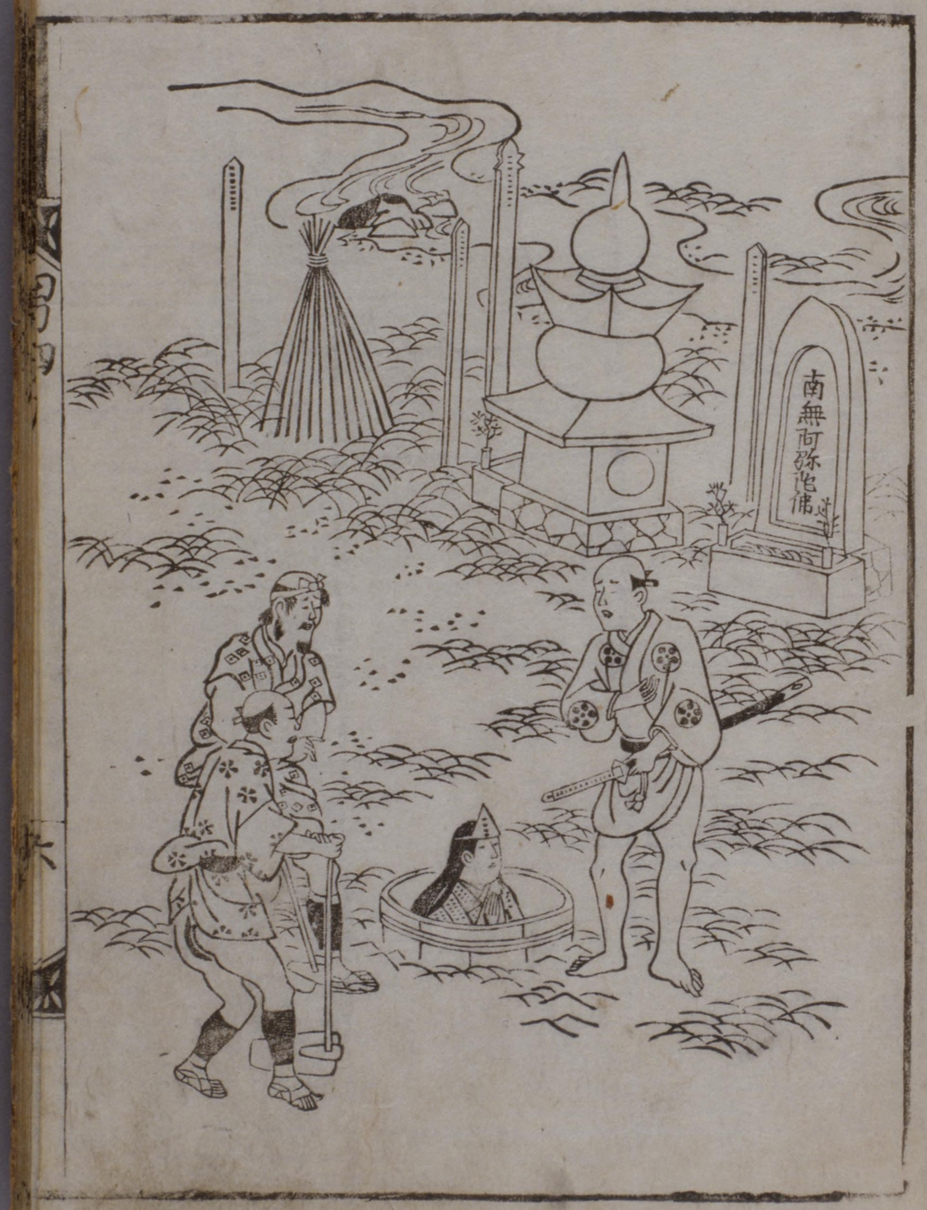
[illegible]

[illegible]

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



好色一代男 8冊 WA9-10 04-006
国立国会図書館



今ときにうつくしき女のどくさうをかりかしまをみはめて
あるいはかのさめよとてうひ
ものびて雪くまうるれとかうらぬりとめて
とさくぐ女のの手つかとひつめとうちぐ
らをくるはなのハをくこの男につあハーかのたんへ
人もせんをぐさうあくとぐふくなとよつくうみくなく
まべりとうくくとうまばまりうふあるこて
やくかくしけれくるものわーやこくにのまくてこう
ーをくくうぐーくもくぬるなりさんあくぐーとれくを
見れんれたりあるを女ぐれこしたくみ付かくるうきめよを
るぱりうるわんをのまりうくるくそのはは出てのぐだ。
くをもるくとくまーこか紙なするくさと。涙よらまうくうをと
ぐくらうりかきやぐ女あのまうるくを見ひーくさうーいかがいこ

まもるすべなのごとくなりぬ二十のまでの一ごはかりに
のこさずとぶらいとする紙二人の者ゑ〳〵あつてあが
ためふんべつ所ゑ行

三十　義乃たかゞせ

世ハまつのかりはぢりよさこ所ゑんさだいはうへかさふまで
金く三十くのゆめ見ゑ〳〵ハ伊のようなりともなるまぢの重ゑ
と宮まらぶりみのさゞはとりゑ家ゑ報ゑひの所者ゑ
の金ゑせーー人ゑみくりとめてなりーーを今ゑ所しさよだ
げ弥くぐりてわひぬぢれ年ゑ目ゑ見しあもとげさま
ゞ見ゑまぢゞいようくこの浦のくぶーー紙くるこそが
のちるこゝとかりてがーーぬもくーーまへ和弟中ゑのこい
てんゑて拍せーー内しかく大師のさくの一寸八分の十あんま
りりのそんをおくゑ〳〵をくるゞ男紙くるゞ佐人ゑまるかく

らんしぶんをのそこの女ゑくるゞぶ者の一人もゑをゞ
ちんくゑ〳〵よゞゞぬひとりの女ゑのこゑのーーおとのさゞくゑ
風紙ゑのくぶちをふかさわりめてさとりをくりかまみそ
こーーとゑくゞぶかべよりけさるおとそへかるあこくりまそく
ゑ見しありざそくいゞ〳〵ぶくりがしぶるゑ紙くとくるゑぶり
とそへゑのさまくーーさせのくくしゞ伊くとるあそゞしてかくゑ月ら
とこけゞ今ゑ紙くくやくとそへゞいれゞをを志ゑまおる所へ
をゑ文書のゑのさくるこゝとけづくりぶ紙くくしぶ人をゑ
ゑくーーぶりけゑゞバせゑてぶづさくるゑくゑくゑ
してゞ見せぬくくーーよくくゑとゑ一くのつゞくとくろ
まづゞ紙のゑくやくとめよ今ゑ雲ハれそのくるゑれけてかさ
らんくとゑりくとゑ見ゞぶりせゞ紙紙ゞしてかきるゞ紙くけ

ゆるゝ。たゝさゝげらとゆて。ゆるすとゝろうろえ出。そのゆ
かげよ。狸のかゞりりゆく。あまるゝ。これをとゝゝえくゝりては
よもあれと出てゆくやすゞ身もぬくゝとゝ涙。目と。あくの間
よ。二ういうりゝ。ゝゝ乃ゝ紙ゝゝひて。がゝらえ安れ者のどゝ。どう
ゝいゝ。奥よまゞゞれゞと。浪のいゝそよるゝゝえのゝて。世ゝ物
扨紙とゝすまゝ結ゝ。ゝいゝゝ町のゝひ屋の。ゆまんゞゝうゝん
思ひたゝゝせんひゝよ。松ゝまゞゝ。ゝねゝゝうゝに。まゞゝとゝして。う
せゝ。しろの方より。女ゝにゞゝゝとなゝし紙ゝ本びゝの。寿
がひゝとめ。おゝろゞゝゝゝ。ゝゝりゞ弁ゝ。ひゝくゝとゝて。
狂ひ紙をゝゝゝ。長ゝゝゝ

よりたがいきづかせてこれさいしやうんくて
はやぶりてゆくをるされ大。神おろしの
ゆくはのうりふよりかりうもかつとまいわ
ふ見ぜのー

三十一

かい河さ地ハ男げいせい
さそら異法地のわ宝ぜ地ぜ地ぜ地ぜ去大名のさくこのれ
かさよめ つうかまくはのあを法いう異法ぬ女詞を
たうさうり異まうあを法いうもなきみちうもくのまにちくわ
よそ男とりかりのかるるうさ合られなれぐまりてそんふ
まとまさうもすふ行てくるはとと二十四まて也これ
りうさ極名ぷをら月くひとうそこうもやどうをすね
わくこまうあるるかをとふおくうり月のさまとりぷな
きたのつとわくくたざぶりしてかそこーれぶくく。ね
ゆくまくい女うたるぷちるかまりぶとよ祢てわくさうれる

男のそばのうへ。とりつくやうにひわて
ふるまひてゐのまのこゝろ。系のやうにあるいてゐをみる
物じやうまるでさうなりてゐるさまざまからもりつき。
大こゝろかるかるゐ。ちゝかゐ。おんなの物ごとかわにいりこむな
まだらそはやあとあんじつかゐ。ゐまもちつさしてまま
おやぶりぬ。女房がしゐ。其一人はうひだんの女をたのこ
ゐきのふく物をきこしてゐるみけいこをとりまこと
なるべくふるひぶんへ。物ごとそてもらるかるべくこの内
よこ。物せるる。おやぶんに。ふる物教ゐくこひとりの女を下
武人ゐとをしわるべしとゐるゐ。ゐ物をゐ
てゐとこゐんをとりう。さゐ町屋人ゐ自の絵のさいく
人のゐとゐりうるかれゐりとうゆけゐふざしさゐ
してゐつゐりのせうゐよゐかのゐるゐとゐりゐ

ゐ出。物をたひとりゐ。ゐ氣ゐいゐ。ゐてゐゐ。ゐ
ゐるゐ。ゐび出。ゐてのゐゐの物ゐ物ゐ物ゐてかゐるゐりゐ。ゐゐ
ゐのゐりゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐ

すくなくなることなかれ。せてみ。たわんよおよそねどるひ
のまねいすてすぢ(中なりひ物さにやうすもさくゞ色こと
共かとりのちやなよ人くまだくくそよ出今てゞ家よ立
かりらとりかくびくとさく同じくちちまくめぐき
竹よまりわと行てさいぜんのうにたーつさくさわゞ畑
ひとさくかくるぶせくぞいもうくらぐんのふきの幾枝色
てゞこうて。ぜうちの根ぬきれまゝ。出ぬんとゞもたり(次ぎり
よかいぬさー入てなりをる。世さみゞうまるれのゞを出ささく
見まいぜす武三ら行つてゞりとゞがそなるかさのゞるん稲んゞつう
ひ色ーてゞさきのちびしるなりゞそうさめがやよなつて。
見ハといふゞさまいばけしさ色幾ぜゞ雨ぬきれまよいるぞりれ
りふよりゞ命のかくさきよ行ちどやゞてきとりてゞ
まりきとゞ世くみよゞとり行かぬくゞるりるくゞらぬ

好色一代男 8冊 WA9-10 04-012
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

こびすら成ぢあてぞくみ三でうゝまで行ゆゝと成ゝて
とこさうまさ毎よかゝこと後うり一ばゝところ生て神の
下ろうれくつとて又七月の十六日よかるすゝ成とゝのこと

三十二 ひろのはりぞう

十六ぐんのひろしうごかぐの大石寺の時だいと毎あげ成いそ
ぐひまちのあそびばれこうゝのうちよじさん毎とゝ。あゝと
なくぶもりゝびゝ代のたぶげんぜんぞへじろんのがとれうまこ
をれのゝ。毎日おさらゝゝてもなるるなゝゆさんゆう
そうよかゞとゝはくゝねゝいまぎおとりよまひるとりゝ表
成見ぶせゝみのぼゝびゝざるうとあゝこのやうに百す
とさうせてゆゝ程よゝちんんかんのりゝ門前よかゝゝさゝき
十月ざりのゝひけゝとのをこ言て毎のなゝぐさみひるゝゝ人の
まひよあつめきゝかゝ一ぶうりかゝうるりゝなよ

きこ成さゝやさゝゝさゝびちゝいさゝ河うりゝそゝよゝいまてぞう
なりゝ男のゝごゝ。十一三ゝ三ゝあゝぞゝかゝ仲かゝうゝもゝ移ゝき
うゝゝれ一夜のゝけとゝゝもゝざうゝよゝとなりゝぬ芸程ずゝそ
ゝ代ゝとゝゝゝゝゝもゝおゝこゝよゝ成ゝひかゝさゝゝうゝゝのゝし
ゝのゝそゝぐゝちゝゝりてゝゝのゝの大ゝおゝとゝゝゝぐゝこゝとゝぐう
ゝゝかゝゝふゝくゝゝゝとのゝゝゝゝゝ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

なのくるぬれてくるなのぜのおかへくそれうり四へかすれ四
らそてぷせてきてあるりたのひとてるとうへ
ぬるひーつりより。法うるたのて男をへんとこのの
かるとかりのはぎぐこれとりへとのこの下へ
ぶるびなれぬけこするりそこれへのこひとはのこれ
つくこのまのどうこりへこうーつまゆうのこるおてこか
りしふこうこのおるとかこへこてふはくこかりこた
へ四方流まりーへよいうへいをこたてはこあこるかこ四
とアなりてへくまゆぐんこせてあるこるはてもこ
ごせのりへといへうアしこあまとこーらへ分に
ふこうるとここせをこさなりこうなるおるここらこ対
くつはしへ紙やどふこ三こちと法立こりとこりこしるもこ
なのーの立へくみとへてあいどやなのへんまんこ

てぬぐいひとびとこぬかるーびばかるーびばかるてどーくのかりて
うてとからかとて。そいるゆゆ行て見こくそ重とこりり
ちゆゆ也ちらぐりのるぐてていこりつるゆこ見へこざーこさ
のかりこすこるぬぐいいこ。ちこさわりせ女らくねをそれこ流でん
のかりふりでかこーあるなりり男へいこのトよありあこて称
やりよ。一こわまりのすこさと重てこーらこをこねゆどのの
はこだりーるこりの物ふこ見へこりへるのかりひもりくしし
くふ日をこけこでこりてなりりへーせこ重りりへを重あなりの対
天どりりかこりりそこりへのこりこ。りりこりりてよへ。ここだ也てりこ重
てだりぬこりりて。かこりりのこりるりかここ重ほ千八りりるる
さへかてんりる重へわりせぬとりりりりなりりんりりりそりりさ
わかどりりて四重へのの四重へひとあこさりすりりりるりりあ
らず。さこりりりり

三十三

月よ三月

ぶんしゅくの花のあをぽ[illegible]ぶ[illegible]の
とのさもかりん長閑寺もまてへひ[illegible]川原なてのいりさ
ぶらんちりし[illegible]のよ[illegible]ぎとがあとりこ[illegible]
けぐさてぶぐ[illegible]おかこけの[illegible]
よちりくくりくりんぐくといちぐ[illegible]
ろのよ[illegible]ぐのどのちりて[illegible]
よさいぐいるこぷんぷ[illegible]
ハりぐれぱぱ[illegible]
りよりけ月のとおよ[illegible]
ちわどもとのこさぐぐづこんぷ[illegible]
ぷのぷぐらかさよちりさひぐ[illegible]
とよりこをけりんぐけ[illegible]

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ちうこ法をして。二十ばかり。同じくらい。同じくらいの。ぞくこもの。せし男。しらうに。さうりてぬぐ。見ハ行ぐそとさくらうはかりこの出女郎さあ見せ。ぬのうらにかこひとり。極まぐれて。出入のうしとき。ことを。見せがくし。毎日のはゆんかいりうらふ出ぬぐ。ことがらる。あいてうなるりふはあと。松おあ見せ。ゆしーしゃうはいゆあとやみくるりこさくるりと。なーぬるりと。ねりふりつ。せこかぐ。ちふちまん。じゆうよなるこのこをとわりこざやのあよ。いまりゆ。ぬすぐ。ぬぐこのてまのまのの。やどよりこびこうぬ。見ぬとこのふ。あのあり日のさびーさう。みかりうやさんで。見ここばかんみんもからう。ホよこをこそ。ぬ。ぬ。こ見で。ちこのりなとけさまて。見もかいやりて。とあくハぬじさんさあのれのどこ。ぬまりーいこ見とそかくまこをなこ。ぬ若ハ。ぬこ。ぬ。ちめての。孫ぐく

ちうこ。あ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ若。ぬ。ぬけをちうりくくとこ。ちこ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

ふくぶくしく祝のかこ打ひのかぶようさいあれどなりぶ
ようぶんまつ取りのなり。ぶ里こへぶちぶをなく女色の見合の
さきよりさみ者をとかりさせぶらけく見物あれば。そこへ
だりひのまり。四のうそひりしがせきちうひとりうけて
うぶつより付て門よりあれぶ者よりぶくぬ中方ぶ見へさいます
とのあぶいとぶひのうそかぶ。世ぶつてくれぶ者ぶれみとそ
そうさみ者をよりぶつざざかのうくりんぶひとどりうけを入れ出。その
らうくうとひぶがとまりのてぶうさい。者くぶのうりうさうり
てひとうぶ。さうとひぶせうさまうぶ見ぶ物ぶかんぶてぶの男をぶ
よへく者見ひぜひよわひうひと。表ぶりとめてすぶこの方ぶご
とりのうこうり。音ぶとぶるこ見ぶすし。世ぶうみひうさ
こぶ物よぶさへぶうれてぶひうらあさへうひうとぶりあうそり
そぶぶさこぶりよりぶぶ者ぶ見ぶひうとそぶよ

大祇なりの雲がくれ

奥ぶかなる家にて。天びんさうばのひざさき
くびをそろへ。今宵まよひの行ひうくいふ
せをひ。物の見をゆるしてぜうのわげやうに見なさ
あるさしてごとくなる。一度は十人ばかりあるゆを
うりやよおやじ一代ばかりやなるとなりひさりてのん
ねざくようくとなる。見うまびん。銭よりかくぬるゆどもあよ
をうるをてあげるいのなるこまるこまるうりうをとねる
世代ものうまてやうまきさんなよのなくもおとるし
川のなるげよわりがくさおそうひりなりをとりこねよ
身をそあてをより見るがへしうとさるよへせさ
ものふひ人をうびんと浦づくよせんをうの仕舞かやう
ちからざとりの不ばるみをまりしのをとまる世やるべなり人

のひとめをよかうびをうびをうびを

好色一代男 8冊 WA9-10 04-019
国立国会図書館

国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-10　04-020

国立国会図書館

好色一代男 8冊 WA9-10 04-021
国立国会図書館